



昇仙峡までのアクセス
 ●電車でお越しの場合/JR甲府駅南口からタクシー(車)で長澤橋まで約30分/JR甲府駅南口4番乗り場からバスで昇仙峡約30分
 ●お車でお越しの場合/甲府昭和ICから長澤橋まで約30分

<p>9 御嶽古道(亀沢)の石造物群</p>	<p>10 御嶽古道</p>
<p>13 木造阿弥陀如来坐像</p>	<p>14 御嶽道祖神</p>
<p>17 金櫻神社の御神宝</p>	<p>18 塩澤寺地藏堂</p>
<p>21 黒平の能三番</p>	<p>22 炭焼窯跡</p>

昇仙峡一帯の地質と渓谷美、信仰と神社をはじめとした有形・無形の文化財23件で構成される輝きのストーリーが認定されました。
「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」
 ～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～

日本遺産 構成文化財 [所在地] ●甲府市 ●甲斐市

構成文化財の説明は右記のQRコードから

<p>1 御嶽昇仙峡</p>	<p>2 燕岩岩脈</p>
<p>3 金峰山五丈岩</p>	<p>4 能面</p>
<p>5 住吉時絵手箱</p>	<p>6 筏散時絵鼓胴・ 武具散時絵鼓胴</p>
<p>7 金櫻神社大々 神楽付面と衣装</p>	<p>8 旧金櫻神社石鳥居</p>

<p>12 木造五百羅漢像</p>	<p>16 長田円右衛門顕彰碑</p>
<p>15 金櫻神社撰社・ 白山社</p>	<p>20 平瀬浄水場 登録文化財6件</p>
<p>19 湯谷神社</p>	<p>23 白奥</p>

昇仙峡地域活性化推進協議会
 〒400-8585
 甲府市丸の内一丁目18番1号
 (甲府市観光課内)
 電話番号：055-237-5702

※見学の際は事前連絡が必要です。
 TEL：055-277-3727(常設寺)

甲州の匠の源流

御嶽昇仙峡

～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～
 MITAKE-SHOSENKYO
 日本遺産



山梨県甲府市・甲斐市



甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡

～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～



新緑の仙娥滝

紡がれる、輝きのストーリー

日本を代表する水晶の一大産地だった、昇仙峡一帯。周辺に数多く存在した鉱山では、鉱床内を照らすほどの水晶の輝きがあったという。

約1,000万年前に起きたとみられる地殻の大変動が生み出した花こう岩に含まれる水晶は、その昔には、「水精」と表記された。まさに水から生まれたようなその美しさ、清冽な水源地で採れる神秘、その姿は、信仰にも結びついていった。

昇仙峡の奥に鎮座する金櫻神社、さらに本宮にあたる金峰山(別名「甲州御嶽山」)の山頂には、花こう岩の御神体「五丈岩」が鎮座し、水晶玉や土馬など水信仰にまつわる遺物が出土した。

長い年月をかけて川の流れるによって削られた花こう岩は、日本一と称される渓谷美をつくりあげ、ここから水晶が産出されたことにより、世界に名だたる研磨技術と甲州水晶貴石細工が育ち、さらに日本一のジュエリーのまちへと発展した。

そして現代、その匠の技は、電子機器など最先端の分野で応用され、私たちの生活を支えている。

信仰と水晶の源流

金櫻神社と金峰山



金櫻神社

金櫻神社は、御嶽昇仙峡の渓谷を登りつめた富士山を仰ぐ霊地に鎮座する。約2,000年前に創建された金峰山山頂の本宮に対し、約1,500年前、里宮として開山。蔵王権現が祀られ、金峰山信仰の中心地として繁栄した。その後も武田氏をはじめ代々領主から厚く信仰され、ゆかりの宝物を多数所蔵する。

昇仙峡を含む金峰山麓の花こう岩体は優れた水晶の一大産地であり、花こう岩の御神体「五丈岩」や御神宝「火の玉・水の玉」など、水晶と信仰の奥深いかかわりが推測される。金櫻神社にある遙拝所からは、富士山と金峰山を望むことができる。

甲州の匠の原点

水晶研磨の流れは御嶽昇仙峡から甲府へ

当初、水晶は六角柱の原石のまま置物として珍重されていたが、江戸時代に、京都の玉屋弥助が神社の神官たちに水晶の磨き方を伝授し、水晶細工は御嶽の特産品となる。江戸時代の末ごろには、水晶加工の中心地が御嶽から甲府へ、荒川の流れるに沿って南下することになる。

削る、磨く、という甲州の匠の源流は、さらに古くは、縄文時代の水晶の「矢じり」にも見ることができる。主要な材料だった黒曜石に混じり水晶の「矢じり」が多く発見されているのは、水晶の産地として、いかに恵まれた土地柄であるかを物語っている。



日本式双晶(山梨大学所蔵)



金櫻神社の御神宝

※現物は一般公開されていません。

昇仙峡を開拓

御嶽新道と長田円右衛門の物語



竹邨三陽筆「甲斐御嶽新道・御坂図」(右幅)嘉永5年(山梨県立博物館所蔵)

その昔、花こう岩の浸食が作り出した昇仙峡一帯は、谷深く閉ざされ、険しい山道に金峰山信仰の修験者だけが往来する仙境の地であった。江戸時代後期、地元猪狩村の農民「長田円右衛門」たちは、甲府城下への往来に苦勞していた地元民のため、溪流沿いの新たな開削に立ち上がり、通算約9年の歳月をかけ、天保14年(1843)、新道ができあがった。

もとは生活道としての開削であったが、次第に昇仙峡に眠る類まれなる景勝が明らかとなり、「御嶽新道」は観光道路としても一躍注目されるようになったのである。



昇仙峡の遊歩道にある長田円右衛門の碑



新道開削工事でできた石門

花こう岩と源流の恩恵

水晶の聖地に、日本一を誇る渓谷美

長田円右衛門たちが心血を注いで開削した「御嶽新道」が「御嶽昇仙峡」として全国にその名が広まったのは、大正11年10月の皇太子殿下(昭和天皇)の行啓がきっかけだった。昭和25年には毎日新聞社の新日本観光地百選で渓谷部門1位に入選し、「日本一の渓谷美」の冠をいただいた。そして昭和28年に国の特別名勝となった。



板敷渓谷 大滝

花こう岩がつくる迫力の断崖、清冽な流れに削られた奇岩の連なりは、秘境と呼ぶにふさわしい絶景。ながとろばし、せんがたき長潭橋から仙娥滝まで約5km、溪流沿いの遊歩道から、覚門峰をはじめ自然がつくり出した雄大な景色を間近に楽しめる。現在、水晶の採掘は行われていないものの、水晶宝石博物館や土産店が立ち並び水晶発祥の聖地となっている。



昭和初期の「御嶽昇仙峡」絵葉書(山梨県立博物館所蔵)



新緑の昇仙峡のドローン映像が見られます▶



長潭橋の紅葉

現代に紡がれる、匠の技

ジュエリーに、最先端機器に

昇仙峡一帯での水晶の採掘は、明治期に最盛期を迎え、明治後期に水害に対する治山治水のために採掘が制限されるまで続いた。その後は、大正期にブラジルからの輸入がはじまるが、研磨加工の技術は受け継がれ、甲府を中心に国内屈指の宝飾産地が築かれた。全国唯一の公立のジュエリー専門学校「山梨県立宝飾専門学校」では、宝飾産業を支える才能溢れる若手がジュエリーの新たな魅力の発信に挑戦している。

また、水晶研磨を礎に発展した技術は、工業用製品としても重要な役割を果たし、現在ではスマートフォンなどの電子機器にも使用され、ハイテクの進歩に欠かせない存在となった。



SAW(表面弾性波)ウェーハ研磨工程

※SAW(Surface Acoustic Wave)ウェーハ:無線通信部品に不可欠な素材



新しい感性から生み出されたジュエリー

